

「開設。黒石高校情報デザイン科」

平成30年春、私は弘前実業高校から黒石商業高校への異動を経て、中南地区統合校開設準備委員会（以下、委員会）オブザーバーとして統合校情報デザイン科の開設に携わらせていただいた。永きにわたって勤務した「黒商」商業科・情報処理科は弘実高に集約され、商業デザイン科を前身とする情報デザイン科は黒石高校へ学習内容を引き継ぐことになるという。第1回委員会が開催されたのは平成30年5月16日のことである。

統合先となる黒石高校においては、当時の教育相談室及びLL教室を現在の基礎デザイン実習室に、視聴覚室を現在のデザイン実習室に改修することとなった。施設の縮小感は覚えたものの、専門科目の教育課程については1年時での「マーケティング」の履修や、特徴的な取組を想定した「課題研究」の単位数の増加並びにデザインの専門性に特化した選択授業の開設等、ビジネス教育とデザイン教育の充実が期待できる教育課程を編成させていただいた。開設にあたってはコース制も検討され、第2回委員会での協議において「統合校における情報デザインに関する学びは商業科の専門性を強く打ち出した上で学科とし特色を出してもらいたい」という方向性が示された。このことは今後も学科運営の礎とすべきことであると考えている。

平成30年10月開催の第3回委員会では「新高校の校章は黒石商業高校情報デザイン科の生徒による」とされた。それを受けて平成31年2月より2年生生徒の授業課題として校章のデザインを取り扱い、全37案の中から5案を選定、翌年度5月の審査会を経て現在案が決定された。採用作品初期案は、およそ1センチ四方の余白にこっそりと描かれた3つの菱形と樹木の幹を連想させる小さなスケッチであった。生徒を含めた関係者で修正と調整が繰り返され、学校の象徴を作るという大役ではあったが、夏、その役割を果たして安堵した。

さて、開設当初より周囲から期待され、反面懸念されたことは本科を志望する生徒数、いわゆる倍率である。依然としてそのことは学科もしくは学校存続のバロメーターとされてはいるものの、重要なのはここでの「学び」そのものである。開設時、「学びの引き継ぎを」と頭では捉えていたものの、実際に大きな環境の変化に直面すると新たな課題が湧き出てくる。その課題とは、情報デザインという教育分野が新黒石高校において果たすべき役割について、また、本科がこの津軽地区の一隅に存在する意義についてであった。

あれから6年、その歩みを振り返り、それを言葉で表すならば「地域」そして「連携」という2つのキーワードに尽きる。本科のデザイン教育には教科書がない。故に素直にその素材を「地域」に求めた。さらに、教材の広がり求めて地域人材や関連機関との「連携」に努めた。そのことから教材は必然的に「実践的学習」となり、ひいてはそれが「情報デザイン科がここ黒石に存在する理由」になり得ているのだと実感している。

その契機となった事業の一つは「高校生と考える中南地域ビジネス創出事業」である。当時の県中南地域県民局地域連携部が主管する本事業は、弘南鉄道沿線の地域資源に着目し、主に「バズる（話題沸騰する）商品開発」を目指すものであるという。コロナ隆盛の令和2年12月の依頼から、新たな取組として参加協力することとし、翌年3月のガイダンス開催以降、令和3年度及び4年度の2年間にわたって計6商品を開発することになった。その活動の旗印として掲げられた「私たちは弘南鉄道を応援しています」というフレーズは、現在継続実施している広告事業「産学官連携による地域デザイン事業」へと発展し、さらにそのことから弘南鉄道弘南線における創立100周年記念事業「ラッピング電車の運行」の実現に結び付いていったのである。

前述した「バズる商品開発」以降の取組に言及すればきりががない。市教委との連携による黒石市立図書館との関わりや市選管の依頼による市議会議員一般選挙PRポスターの制作をはじめとして、徐々に本科の活動のフィールドは広がることとなるが、その裏には本科スタッフのきめ細かな対応と熱心な指導、加えてそれに応えた生徒が存在したことは言うまでもない。その全てを紹介することはできないが、詳細については後掲の「活動の記録」並びに掲載のQRコード（P99）から本校ホームページで是非確認をしていただきたい。

現在、本科では様々な事業に向き合い、取組んでいるところである。依頼を受けての事業もあれば学科としてその仕組みを作り上げてきた事業もある。デザインとは物事の間を丁度よく繋ぐ作業であり、課題解決に向けてやるべきことを探す作業である。故にこの最適解を求めるデザインという「学び」は、人の営みの全てに共通するマインドであると捉えられているのだ。そのマインドに「地域」と「連携」という種を蒔き、さらに前述校章発案者の想いを借りて、最後に大団円を思い描く。

「(図案は) 統合校が地域の期待を担い発展していく姿を表しています。それは私が考える、人々が一体となった明るい町『黒石』を表現したものです。人間の成長と地域の発展を表現したのが、この校章のデザインです。」ここに示された由来のとおり、学校と地域、双方の一体感ある成長と発展。その実現に向けて101年目の第一歩を力強く踏み出すことを切に願っている。

(文責：令和7年度 情報デザイン科 科長 菊谷 哲)